令和５年度第４回　仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会
議事録

1　日時

令和６年３月１５日（金）　１０時００分～１２時１０分

2　会場

若林区役所４階第２会議室

3　出席者

(1) 評価委員

(2) 事業担当課

家庭健康課、区民生活課、まちづくり推進課

(3) 事務局

まちづくり推進課

4　傍聴者　１名

5　議題

令和５年度企画事業の事後評価について

6　配付資料

(1) 令和５年度企画事業実績概要報告

(2) その他関連資料、成果物

7　経過概要

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 令和５年度企画事業実績概要報告

☞ 各課で事業ごとの写真等を投影しながら、実績概要報告書に基づきポイントを報告。その後、質疑応答・意見交換

(4) 閉会

令和５年度企画事業に関する質疑応答及び意見交換　記録

委＝評価委員　　担＝事業担当課

1　若林区健康づくり区民会議、
2　六郷地区の健康づくり推進
担当：家庭健康課

委　生活習慣病の予防を大きなテーマとして、一定の効果を感じられたことと思うが、近年の特徴として、新型コロナウイルス感染症やその後遺症も世間の関心の高いテーマであり、そのようなことも家庭健康課が取り扱うのか。

担　感染症の担当部署は保健福祉センター管理課だが、大勢の人が集まる会場で事業を開催しているため、管理課と情報共有し、感染症対策を行いながらイベントを開催している。

委　事業の企画上、参加者が高齢者や子供に偏ってしまうのは致し方ないことだが、メタボリックシンドロームや喫煙者、睡眠不足など、働き盛りの当事者に啓発する工夫があれば教えていただきたい。

担　ゲストティーチャー事業で小中学校のお子さんを対象に健康教育を行い、習ったことを家庭に持ち帰り、話題にしてもらうことで、少なからず働き盛りの世代へアプローチができていると考える。他にも、若林区体育振興会が主催するソフトボール大会やテニス大会などでブースを設置し、試合の合間に選手に尿中ナトカリ比測定をしてもらい、その結果を数値が良い地区とあまり良くない地区とで地図上にプロットし、その内容を家庭で話題にしてもらうなどの取り組みもしている。

委　企業が社員の健康を意識しなければならない時代になっており、健康で元気に働いてもらうことは企業側にとってもすごくメリットがある。経済産業省も「健康経営優良法人認定制度」で健康経営を推進しており、働き盛りの世代にアプローチをしていくためには企業と連携することも重要である。

委　六郷地区が仙台市全体と比較して、HbA1c 高値者の割合や成人期の生活習慣病有所見者の割合が区内全体と比較して高いことへの理由、背景は分析できているのか。

担　調査した訳ではなく、地域の方から聞いた話だが、運動不足と食生活に寄るものと話される方が多い。

委　子供時代の生活習慣を見直すことは非常に難しいと思うが、子供たちに理解してもらうための工夫があれば教えていただきたい。

担　授業の中で、具体例を出して、「お父さんは仕事から帰ってくると家でごろごろする」「お母さんはつい甘いものをつまんでしまう」「子供はゲームをずっとしている」など、生活習慣のありがちな課題を組み込みながら、どういったところを直していくべきかを一緒に考え、感じたことを家庭でも話すように伝えている。

委　健康づくり寸劇はどれぐらいの方が参加されていて、反応はどうだったか。また、事業の課題として「事業の継続については健康づくり啓発としての効果や効率化に向けた方向性、手法の検討が課題」と報告書に記されているが、具体的にどのような手法を考えているか教えていただきたい。

担　町内会やサロンなどで今年度は 10 か所位で開催した。劇団員は 10 名程度で都合がつく方が参加しているが、高齢者が多く、物品の搬出入も含めて人手不足を感じており、効率的にできないか検討が必要。寸劇は 20 人から 30 人位の方に見ていただくことが多く、演者も素人なので台詞を読み間違ったり飛ばしてしまうこともご愛敬で、却って受けたりしている。

委　学校でのゲストティーチャーを招いての事業について、六郷小学校はかなり学級数が多いので、全学級で行うことは難しいと思うが、どういった範囲で行ったのか。
それと、六郷地区で高血圧や HbA1c の方の割合が多いと報告があったが、子供の視力のことで気にしていることがあり、それについて情報があれば教えていただきたい。

担　クラス毎に授業を行った際はクラスを 2 つに分け、同学年全クラス対応したこともあった。子供の視力についての資料は手元にないが、アンケートの中で「自宅でメディアをどれくらい利用するか」というアンケートを取ったので、何か分かるかもしれない。

3　若林区安全安心街づくり活動推進事業
担当：区民生活課

委　啓発に使う物品を工夫したり、啓発する時間帯を年金の支給日に合わせるなど、大変有意義な取組であると感じた。一方で、防犯協会の方の高齢化を課題として挙げているが、ご高齢の方以外の目線でだけでなく、是非子供目線の取り組みでも展開していただきたい。

委　若林区役所は青色回転灯パトロールカー（以下青パト）を何台所有しているのか。

担　単位防犯協会と呼ばれる各地区における防犯協会が 9 つあり、34、5 台所有している協会もあれば、所有していない協会もあり、台数の偏りは課題である。今、若林警察署で青パトの共有方法を検討している。

委　子供への声かけや不審者などの事案については、度々県警から注意喚起の連絡があるので、可能であれば更に多く巡回していただきたい。交番毎の犯罪件数増減が定期的に発表されるが、件数が多い特定のエリアはあるのか。

担　刑法犯の認知については、宮城県警が取り扱っているが、特定のエリアの増減までは示されておらず、地区の防犯協会のお話しを通じて認知するということが 1 つの情報源となっている。

委　過去にモデル事業を展開した地域とは具体的にどこか。また、今回初めて情報交換会を行ったということだが、その経緯について教えていただきたい。

担　平成 15 年度から若林区が独自に始めた「安全安心まちづくりエリア会議」と呼ばれる会議組織体をモデル地区ごとに組織していた。モデル地区の選定は区内に存する連合町内会単位で輪番に実施することとし、1 地区 2 年間の事業展開を行っている。
モデル地区事業の実施に際しては予め連合町内会長に打診の上、了解を得て行うこととしている。また、防犯協会にも参加してもらうことのほか、モデル地区内に所在する学校や幼稚園、地域包括支援センターなど、各種団体に参加の呼びかけを行っている。
情報交換会を始めた経緯は、単位防犯協会の横の繋がりが乏しかったことから、取り組みやノウハウの共有のため行うこととなった。

委　傾向的に高齢者向けの啓発が多いと感じるが、闇バイトや裏サイトなど若年層向けの取り組みについて検討されているか。

担　現状取り組みを行っていないが、以前、東北学院大学の地域連携課や学生課と話す機会があり、闇バイトについては、学内のポータルサイトを使って注意喚起をしていると話され

ていた。東北学院大学に限らず、学生への犯罪について情報収集を行い、区役所としてできることがあれば対応していきたい。

4　若林区民ふるさとまつり
担当：若林区まちづくり推進課

委　協賛金を集める具体的な手法について、実行委員会ではどのように話し合われているか。

担　今年度は若林区内の企業を中心に協賛金の依頼文書を発送した。コロナ前は企業に直接お伺いし、お願いしていたこともあったため、来年度はそういった取り組みも行う必要があると感じている。

5　地域メディアの活用による＜新しい地縁＞創造プロジェクト（ラヂオはいらいん若林）
6　合唱のつどい
担当：まちづくり推進課

委　毎年人が抜けたり担い手不足で苦労されているようだが、ラジオ 3 と連携してメディア関係に就職を希望している学生にインターンシップの一環とするなど、興味を持っていただくための工夫を凝らすような取り組みをしてはどうか。

担　今年度東北学院大学の学内ポータルや放送サークルに声がけをしたところ、ラジオの機器や編集などに興味がある方に参加していただくことができた。他にも、ラジオ 3 でインターンシップに来ていた方もスポットで放送に入ってくれたりしたこともあり、次年度はそういった学生の力を借りていけないか検討している。

委　まず、ラジオはいらいんについて、報告書で示している内容が区のホームページに載っていない。また、今年から Spotify を始めたということだが、区のホームページに案内が全く出ていない。合唱のつどいについても、開催報告として写真 1 枚程度しか載っておらず、どういう団体が出ているのかも分からない。
それらを含め、「若い人を呼びたい」「新しい人に参画して欲しい」という反省は理解できるが、区としての姿勢が非常に分かりにくく、どちらも毎年同じ課題を抱えたままで全く改善されていない。
まちづくり協議会は一般市民が参加できる仕組みはあるのか。そのための工夫を区として取り組んでいるのか。各事業にどういう立ち位置で関わっているのか、教えていただきたい。

担　まちづくり協議会への参加については、誰でも参加できることになっているが、広報面で不足していることは認識しているところである。まちづくり協議会のパンフレットは 2 年に 1 度内容を新しくしており、令和６年度から配布するパンフレットの表面

には「メンバー募集中」のPRを追加したところである。ホームページ上でも呼びかけしていきたい。
各事業における区の立ち位置としては、事務局として一緒に企画・運営していく立場であり、ホームページなどでのPRは不足していたように感じる。特にラジオはいらいんの番組内容発信やspotifyの案内についてはすぐにでも対応していきたい。
合唱のつどいの運営主体は合唱連盟若林であるが、新たな団体を受け入れることに消極的なところもあり、連盟と話しをしながら広げていきたい。

委 協議会や団体が新しい人材を入れることに対して消極的だという気持ちは理解できる。しかし、区が事務局を担っているのであれば、積極性を見せていかないと、今後の運営は難しくなる。区の事業であるという見せ方をしていただきたいのと、現状どこが課題なのか、協議会とゆっくり話していただきたい。
それと、ラジオはいらいんはボランティアで行っている割に非常にハイペースな配信であり、本当に無理のない運営かどうかも含めて、きちんと運営していくためにはどのようにしたらいいか検討していただきたい。

委 災害時にラジオ３が若林区の地域に密着した被災・防災情報等放送することはあるのか。

担 放送することはある。東日本大震災の際も、ラジオ３の枠を使って、被災状況や物資の状況を放送していたと記憶している。

委 他区のコミュニティFMでは学校を周り、その学校の子供たちのインタビューや合唱などを放送することで、若い世代の方々にも聞いてもらえるような取り組みをしている地域もある。参考にしていただきたい。

委 ボランティアとして携わる方々が、地域のことを調べ、若林区の魅力というテーマに即し、計画的な組み立てをしていくことは非常に難しく、番組の魅力が欠けてしまうのではないかと危惧している。だとすれば、若林区まちづくり推進課だけでなく、広報課と連携し、テーマの設定や方向性のアドバイスをもらいながら枠組立てを行うことも有効だと考える。

担 積極的にあらゆる手段を使いリスナー確保に努めたい。テーマ設定や番組の組み立て方についてはラジオ 3 にも入っていただいているが、まちづくり推進課としても勉強していきたい。

7　広瀬川灯ろう流し「光と水とコンサートの夕べ」
担当：まちづくり推進課

＜質疑なし＞

8　若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）
担当：まちづくり推進課

委　街歩きの巡る場所やルートなど委員の方々が工夫されているのがよく分かる。ただ、市民の方で若林区の街歩きに取り組もうという方々が非常に多いので、そういった団体と連携を深めてみてはどうか。また、電子申請による申し込みを導入したことにより、若い方々の参加など、取り組み上の変化があったのであれば教えていただきたい。

担　申込者の年齢層は従来と変わりなかった。お知らせをホームページや市政だよりで行っているが、若い世代も参加して欲しいので、来年度は広報手段も変えていきたい。

委　まち歩きに若い世代を参加させたい理由はどのような理由か。歴史に触れながら若林区の魅力に気付かせたいのであれば、ご高齢の方が多くなって然るべきである。若林区の魅力を若い人に伝えたいということであれば別のアプローチの仕方を考えるべきではないか。

担　歴史だけに目を向けるのではなくて、「区内の商店街のお店を巡るまち歩きを行ってはどうか」などの意見がまち歩きのメンバーから出ているので、これまで行ってきた街歩きとは一味違った企画を展開しながら、参加が少ない若い世代にも興味を持っていただきたと考えている。

委　この事業を実施している時間帯では若い方々の参加は難しいと思われるが、ガイドさんの話した内容が活字や音声 AI などで再現し、参加したくてもできない方々に向けた展開はできないか。

担　ホームページ上で簡単な概要は載せているが、ガイドさんが喋った中身までは掲載していない。情報発信の仕方については今後検討していきたい。

委　そうなると 2 次使用となり更に費用が発生する場合もあるのでは。

担　ご指摘の通りであり、ガイドさんと検討の上、進めていきたい。

委　質問としては、参加費の 500 円が事業費にどう反映されているのか教えていただきたい。意見としては、区の事業として実施する意味が気になっている。まちづくり活動助成対象事業の 1 つである「連坊オモシロ街歩き」でも西大立目氏をお招きし、連坊

や荒巻の街歩きを行っているが、同じパッケージであり、そちらの団体に企画をお渡しすれば運営していただけるのではないか。区で行うのであれば、ガイドの育成にシフトした方が意味があると思うし、魅力を感じて終わりで果たして良いのだろうか。「魅力を感じる」ではなく、「課題を発見する」タイプの街歩きがあっても良い。
若い世代の視点での企画を考えるのであれば、先程質問したように、まちづくり協議会の若返りを真剣に考えなければならないのではないか。協議会の会員が高齢者だから、高齢者向けの企画になるのは当たり前で、まち歩きに関しても今後の展開を積極的に考えるべきではないか。
定員 20 名に対して、申込みが多くあったことは良いことだが、裏を返せば回数を増やすべきとも捉えられるので、事務局としてしっかり検討すべきである。

担　参加の 500 円については、まち歩きが終わった後に、その区内の歩いた地域にあるお菓子屋さんのお菓子をお土産としてお渡ししていて、加えて、参加者の保険代や資料代に充てている。

委　事業報告書には参加費用を入れた状態で書いていただきたい。
また、連坊オモシロ街歩きや宮町の街歩きなど意欲ある市民が出てきている中で、本事業の位置づけが問われてくる。

委　何となく街歩きを事業として始めることは重要なことではあるが、その前にいくつか大事なことがあって、1 つは収入構造も含めた運営組織の在り方を事業実施前に勉強する必要がある。もう 1 つは地域コンテンツやアーカイブが個人に属してしまうと、その方がいなくなってしまうと誰もできなくなってしまうので、地域の資源として担保しておく必要がある。

担　これまでいただいた様々な意見は、まちづくり協議会と十分議論し、事業の在り方を検討していきたい。